

平成15年度 文学部 授業計画表[syllabus]

| | | |
|---|-----|--|
| 科目名 卒業研究Ⅱ (生活) (英文名) Graduation Research Ⅱ (Life Environment Studies) | 2単位 | (ふりがな) こみやま きよこ 担当者 小宮山 潔子 e-mail kkomiya@kokushikan.ac.jp |
| 授業のねらいと概要: 生活科全般への理解を深め、生活科の実践力を身につけること。同時に立派な卒業論文を完成させること。 | | |
| 教科書:小宮山潔子「生活科教育の展開」(学文社) 木下是雄「レポートの組み立て方」(筑摩書房) | | |
| 参考図書: | | |
| 評価法: レポート及び卒業論文 | | |
| 具体的評価方法等: | | |

【授業計画】

| 回数 | 講義テーマと概要 |
|-------------|---|
| <春期> 第1回 | 今後1年間の活動について打ち合わせ 各自提出の卒業論文題目及び目次について話し合い。卒業論文作成計画を決定する。 |
| 第2回 | 教員採用試験問題演習 「レポートの組み立て方」 P9～P48 模擬授業。実践と反省。 |
| 第3回 | 教員採用試験問題演習 「レポートの組み立て方」 P49～P100 模擬授業。実践と反省。 |
| 第4回 | 模擬授業。実践と反省。これまでの授業記録の総まとめ、整理。ビデオ「教育実習」を用いて学習 |
| 第5回 | 教育実習中卒論のために実習校でのアンケート調査を必要とする場合は手続きをふんで開始する。 |
| 第6回 | 教育実習中生活科授業を担当する場合は、授業計画案、教材等を準備し、記録を持ち帰る |
| 第7回 | 教育実習中、少なくとも一度は生活科授業を参観し、その授業見学記録を整理してまとめる。 |
| 第8回 | 教育実習中教育実習日誌とは別に実習校における生活科について記録、整理して持ち帰って報告する。 |
| 第9回 | 「レポートの組み立て方」 P101～P153 生活ビデオ「わたしのがっこう」「みんなでそだてよう」 生活科Q&A演習 |
| 第10回 | 「レポートの組み立て方」 P154～P201 生活ビデオ「こうえんへいこう」「のりものによってでかけよう」 生活科Q&A演習 |
| 第11回 | 「レポートの組み立て方」 P207～P249 卒業論文のその後の経過報告及び討論。各自の夏休みの課題決定。 |
| 第12回 | 生活科学習指導の要点としての「児童の思いや願いを育てる」ということ。対象との魅力的な出会いを作り出す教師の役割について。 |
| <秋期> 第1回 | 卒業論文について 各自夏休み中の課題について結果の報告と討論。 |
| 第2回 | 日本生活科・総合的学習教育学会での研究授業報告 モデル指導案の検討。それを基礎に各自の指導案を作成。 |
| 第3回 | 人、社会、自然とかかわる方法を重視することについて。学習過程において児童とともに進めていく姿勢の大切さについて。 |
| 第4回 | 情緒的なかわりと知的な気付きを大切にすることについて。行動と思考・判断・表現の一体化したこの年代の児童の発達特性について。 |
| 第5回 | 生活科授業の実際を見学 研究授業発表校に出掛けて授業を見学する。みるポイントを決めて行くこと。レポート提出。 |
| 第6回 | 見学した研究授業に関して報告、討議 研究授業の指導案を検討。それを基礎に各自の指導案作成。 |
| 第7回 | 卒研生活ゼミ研修旅行について打ち合わせ 各係を分担し、交渉、計画、連絡係を確認。「討論」の時間のためのテーマと係を決定 |
| 第8回 | 卒研ゼミ研修旅行 自由で自主的な体験活動とする。「討論」の時間を有意義なものとする。 |
| 第9回 | 卒論指導 疑問点、質問事項の整理。論理的整合性の検討。 |
| 第10回 | 卒論指導 引用箇所、引用文献の明記、参考文献の記入。 |
| 第11回 | 卒業論文提出、卒論要旨作成。卒論発表会の詳細を決定、準備。 2, 3年の卒研生活科生への招待状作成。 |
| 第12回 | 卒論発表会 |